

## 2. ウイルス担当

平成2年度に実施した試験検査業務はインフルエンザウイルス分離・同定及び血清検査，風疹抗体検査，HIV（エイズ）抗体検査，日本脳炎患者抗体検査，MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎におけるムンプスウイルスの分離・同定である。

また，平成2年度より，九州地方衛生研究所ウイルス分科会の共同研究として，手足口病，無菌性髄膜炎等の患者検体よりウイルスの分離・同定を行った。

各業務内容は以下のとおりである。

### 1) インフルエンザ

今年度のインフルエンザ様疾患集団発生は，1991年2月18日に早良区のN小学校で初発の届出があり，その後，市内の小・中学校10校で集団発生が確認された。発生報告のあった小・中学校3施設19名についてインフルエンザウイルスの分離・同定及び血清学的診断を行った。その結果，11/19名からA香港（A・H3N2）型が分離された。血清学的には，18/19名においてA香港型に有意上昇がみられ，1名はAソ連（A・H1N1）型に対しても有意の上昇が認められたため，本年度の集団発生例における主流はA香港型で，Aソ連型も一部で流行したことが判明した。

また，散发例6例からはA香港型2株とAソ連型1株が分離され，さらにコクサッキーA5型も分離された。したがって，本年度の本市におけるインフルエンザの流行はA香港型を主流としたAソ連型との混合流行であった。（詳細は事例報告に掲載）

### 2) 風疹

平成2年度の風疹抗体検査件数は368件であった。全体の陰性率は31.0%となり，明らかに低下傾向にある。この要因は受検者に占めるワクチン接種者の増加によるものと考えられる。

表1に過去5年間の年齢群別抗体陰性率の推移を示した。

表1 過去5年間の風疹抗体陰性率（%）

年度	1986	1987	1988	1989	1990
20～24	34.7	14.9	15.5	20.1	22.9
25～29	53.0	48.9	38.8	35.5	26.2
30～34	54.6	42.6	45.1	36.8	40.8
35<	32.0	22.2	34.0	56.0	0.0
全体平均	49.9	42.1	37.9	35.7	31.0

### 3) 日本脳炎

今年度の日本脳炎患者発生は疑似患者1名のみであった。HI抗体価が認められず，また患者の死亡により最終的な血清学的診断はできなかった。

表2 日本脳炎患者HI試験結果

性別	年齢	発病年月日	HI抗体価		判定	備考
			2ME			
女	84	H2. 6. 21	<10	<10	不明	6. 23死亡

### 4) HIV（エイズ）

今年度のHIV（エイズ）抗体検査は483件であり，スクリーニング検査の結果，すべて陰性であった。

### 5) MMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎

今年度のMMRワクチン接種後の無菌性髄膜炎の検査件数は9件であり，そのうち4件からムンプスウイルスが分離された。分離ウイルスを国立予防衛生研究所に送付した結果，4株ともワクチン株（占部株）であった。

### 6) その他

今年度より九州各県の地方衛生研究所ウイルス分科会の共同研究の一環として，手足口病および無菌性髄膜炎等のウイルスの分離・同定を開始した。福岡市立こども病院・感染症センターの協力を得て今年度は糞便16検体，髄液18検体，咽頭拭い液2検体を検査した。その結果，糞便から8株，髄液から3株のウイルスが分離された。

表3にウイルスの分離・同定結果を示した。

表3 検体別ウイルス分離・同定結果（平成2年度）

	Adeno 型不明	Entero 71	Coxsackie B3	Echo 9	Echo 25	Echo 30	Mumps	検出数/検体数
糞便	1	1	1	2	1	2		8/16
髄液					1	1	1	3/18
咽頭拭い液								0/2
計	1	1	1	2	2	3	1	11/36